



外壁に設置した十字架



## 白壁の十字架

(黄金律とは(中))

結婚して三人目の子トされた。いろいろ考え、それを道路に面しに掛けておられるのは、今神父が一番気を付けておられるのはアフリカのコンゴの子供たちのこと。毎年現地を訪れ、支援活動をしておられる。

神父は「自分にしてもらいたいことを相手にする」という黄金律通り、新約聖書・使徒

五十年に現在の場所に自分がキリスト者として生きると宣言したのである。黄金律と言わられる価値観を持って生きることを隣人に宣言

五十年に現在の場所に自分がキリスト者として生きると宣言したのである。黄金律と言わられる価値観を持って生きることを隣人に宣言

五十年に現在の場所に自分がキリスト者として生きると宣言したのである。黄金律と言わられる価値観を持って生きることを隣人に宣言

したつもりである。少なくともそれに責任を持つた生き方をする私はそれが信仰だと思っている。

先日、山口教会のカングス神父と朝食をともにする機会を得た。

スペイン出身の神父は

今年九十一歳。来日して六十六年になるとい



いつも笑顔のカンガス神父

手にもしなさい」「受け

るよりも与える方が幸いである」「自分を愛す

るよう隣人を愛せ

という言葉で、人生で大切なことが何かを我々に示されたのだろう。

う。

キリスト者として生きるという宣言は、その黄金律を人生訓として生きることだと外壁に飾った十字架を見ながら改めて思う。

しかし彼らは極めて厳しい生活環境の中でも、人間としての尊厳

が幸いである」が自

分の黄金律と言われる。

インドの貧しい人たちのために生涯を捧げたマザー・テレサと共に通するものを感じる。

私はここに「どもに生きる」ことの大切さ

そこには自分を犠牲にして他者に与えるとい

う悲壮感はなく、相手

を想い、自分もそこに

あることを喜びとして

おられる明るさがある。

一方、アフリカやイン

ドなどで貧しい生活を

強いられている人たち

は人に与えるものがな

い。それは今、ヨーロッ

パに殺到している難民

の人たちも同様である。

生きることは始まる。

最近「〇〇第一主義」

が目立つ。人間は確かに自分が第二であること

は否定しない。しかし、

人類は長い歴史の中で、

それでは誰も幸せにな

れず「共に生きる」こ

との大切さを学ぶ。

外壁の十字架の横の

外灯の下に風鈴をつけた。団地内なので人通

りは少ないが、散歩し

ながら通る人たちに風

鈴の音がやさしく涼し

さを伝えてくれる。そ

して鉢植えのハイビスカ

スの花を道路の方に向

きを変えた。